

市町村名		今帰仁村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	今帰仁村健康長寿体験滞在型観光の促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部課名	福祉保健課	事業実施(予定)年度	平成24年度～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 - 1 - (1)	
事業内容	<p>・沖縄県第2の長寿村である今帰仁村は、「ヘルスツーリズム」を推進し、民泊事業等による観光の振興を図ることとしている。本事業では、住民へのアンケートや会議を通し長寿の秘訣を探り、健康長寿基本システムを構築することで、体験滞在型観光を促進する。</p>						
実施方法	<p>直接実施 委託 補助 負担 その他 ()</p>						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,183	16,777			
		(b)予算現額	7,183	15,647			
		(c)増減額(b-a)	0	-1,130			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		7,183	15,647			
	B.執行済額		4,836	15,647			
	うち交付金充当額		3,868	12,517			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		67.3%	100.0%			
予算の状況の説明		<p>・アンケート調査集計分析報告書作成、健康長寿作戦会議(推進委員会)は当初予定通り実施した。村内各区での健康長寿作戦会議、アンケート調査の報告を含めて次年度開催することとした。 ・1,130千円の不要額は、入札残(備品購入)によるもので、予算範囲内での適正な執行ができた。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・健康長寿基本システム構築に向けたアンケート調査の実施	目標	(1,987件)	(アンケート調査の実施)	()	()	
		実績	1,847件	アンケート調査の実施(報告書の完成)			
	・健康長寿作戦会議の開催	目標	(2回)	(3回)	()	()	
		実績	2回	3回			
達成状況説明	<p>・健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査集計分析報告書と、健康と観光を推進する健康・観光なきじん21振興計画を作成した。また、管理栄養士による今帰仁の食のレシピ300点を作成した。 ・健康長寿作戦の具体的な取組に向け、村民の健康づくりと観光振興をテーマとした推進委員会を3回開催した。 ・亜熱帯特有の自然と食による今帰仁村医療ツーリズム事業化検討事業を開催した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	・健康長寿基本システム構築に向けたアンケート調査の実施 ・地域で共に支えあう健康長寿プログラムの立案	目標	(0) (0)	(1,987件) (3回)	(調査実施プログラム立案)	()	(健康長寿システム構築 5回)
		実績		(1,847件) (2回)	調査実施プログラム立案		
	[参考指標]						
	・主要観光施設における観光客数	目標	(248,500人)	(261,000人)	(274,000人)	()	(300,000人)
		実績		249,998人	266,398人		
進捗状況説明	<p>・健康長寿基本システム構築のためのアンケート調査集計分析報告書を作成したが、全村民対象・各地区での報告会は次年度とした。 ・今帰仁村医療ツーリズム事業化検討事業は、村民が実施している生活習慣予防・改善教室と連携した事業であり、今帰仁村への観光客誘致と医療ツーリズムを活用した6次産業化へと推進する。</p>						

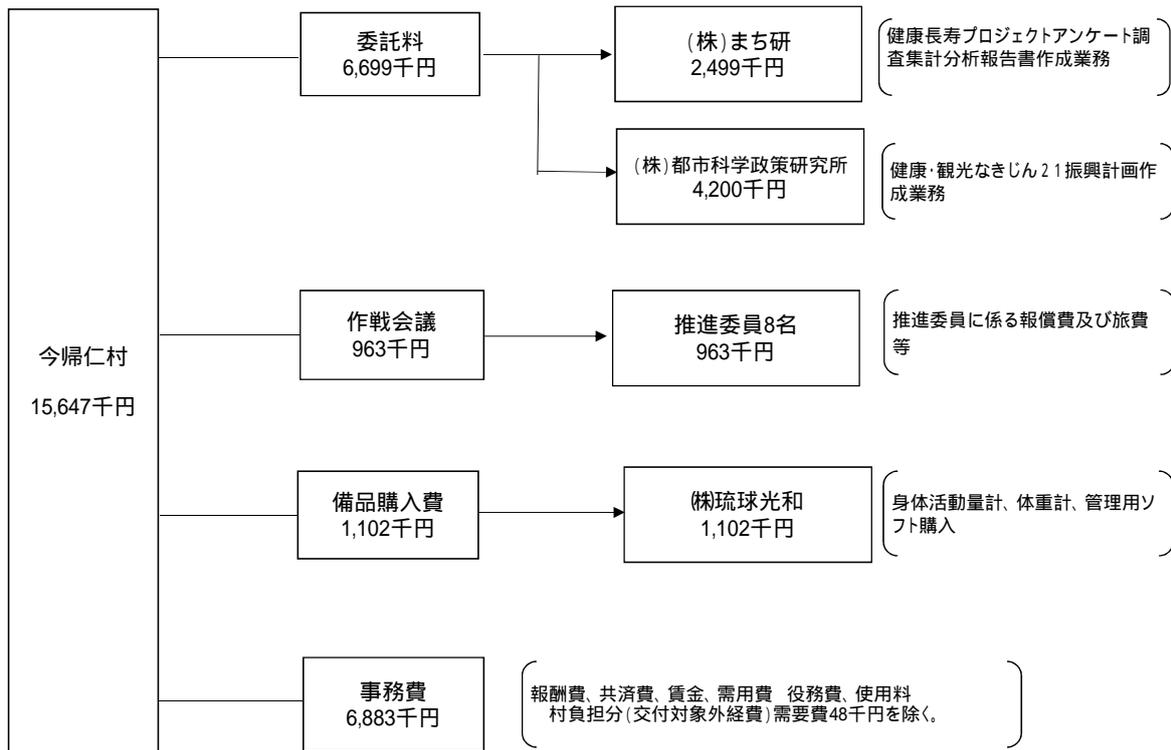
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿体験滞在型観光の促進に向けて、観光協会と受け入れ態勢を整備し、この事業を村民と地域課題として共有し、地域活動延長戦上の事業促進と企画商品化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康長寿アンケート調査結果から将来への健康長寿村への方向性を村民と共有し、健康づくりの日常実践による村民の健康寿命の延伸へと繋げる。また、観光協会の民泊登録世帯との連携と、村民の日常的健康習慣メニューを訪れた観光客にわかりやすく提供し互いに実践する。

今後の取り組み方針

- 美しい豊かな自然環境の中で、村民と本村を訪れる方々が心身ともにリラックスした健康づくりを提供する。
- 本村で提供できるアクティビティなスポーツ、世界遺産の今帰仁城跡に代表される沖縄の歴史を巡りながら、楽しめる健康づくりを推進する。
- 地元の食材を活かした伝統的健康食を楽しみながら健康づくりを進める。
- 本村の個性を活かした健康づくり教室を開催し、村民の健康づくりを進め、村民の健康づくり地域活動と併せて今帰仁村でしかできない歴史、文化、食やスポーツを提供することで健康長寿体験滞在型観光プログラムをヘルスツーリズムとして推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,695	15,647	12,517	3,130	48



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 -	指導用情報機器購入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 - (3) - ア
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				- 3 - (1)

事業内容	教職員指導用ノートパソコン、タッチパネル等を導入し、電子教科書を活用した学習が可能となり児童・生徒の学習意欲の向上を図る。			
------	---	--	--	--

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	22,740	2,000			
	(b)予算現額	22,740	922			
	(c)増減額(b-a)	0	1,078			
	(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)	22,740	922			
	B.執行済額	19,137	922			
	うち交付金充当額	15,309	737			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	84.2%	100.0%			
予算の状況の説明	・不用額が1,078千円発生しているが、見積額の減あり、計画していた事業内容は小学校のデジタル教科書を除いて概ね実施した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		教育用情報機器配布学校数 小学校:3校	目標 (小学校:3校 中学校:1校)	(小学校:3校)	()
	実績	小学校:3校 中学校:1校	小学校:3校		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・村内各小学校3校へデジタル教科書(理科・社会等)の教育用情報機器の配布ができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		村内小学校の教育用ソフト等導入率100%	()	(100%)	(100%)	()
		実績	100%	100%		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	・小学校3校へデジタル教科書(理科・社会)24台の教育用情報機器を配布することで、デジタル教科書を活用した学習が可能となり、児童・生徒の学習意欲の向上を図ることができた。					

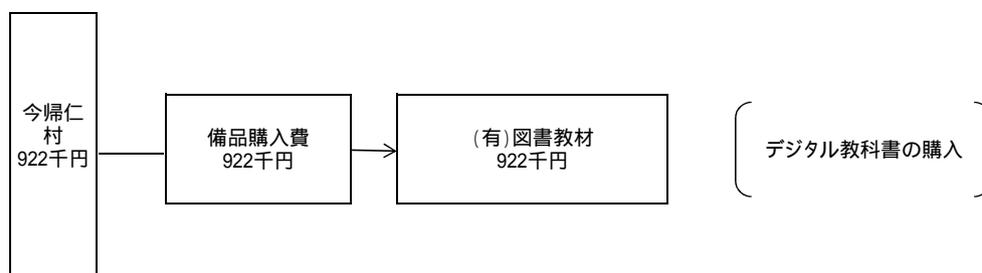
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な教科の電子教科書の導入が完了したが、今後授業を進めるうえで電子教科書だけに頼ることなく授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子教科書の導入を行ったが、今までの紙教科書も含めた形で個々の授業を進める。

今後の取り組み方針

・小学校3校のデジタル教科書は、国語、算数、理科、社会と整備を行った。今後はデジタル教科書の優位性である画像や音声を含めた映像の利用は興味を抱き学習意欲を高めると思われる。また、電子教科書がスムーズに使いこなせるように、教師の研修会を行っていきたい。また、電子教科書に偏るのではなく、通常の教科書(紙)とのバランスのとれた授業の強化に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
922	922	737	185	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村											
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	2 -	吹奏楽楽器購入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア							
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成 - 3 - (1)							
事業内容	・吹奏楽に必要な楽器を整備することにより、村内の祭りやスポーツイベント、式典などの多様な場面において、演奏活動を行うことが可能となり、今帰仁村の教育・文化・観光産業に寄与する。												
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()												
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度			
		(a)当初予算額	7,523		5,500								
		(b)予算現額	7,523		4,400								
		(c)増減額(b-a)	0		1,100								
		(d)繰越額	-		0								
	A.計(b+d)		7,523		4,400								
	B.執行済額		7,508		4,400								
	うち交付金充当額		6,006		3,520								
	次年度繰越額		0		0								
	執行率(%) (B/A)		99.8%		100.0%								
予算の状況の説明		・1,100千円の不用額は入札残によるもので、予算の範囲内で適正な執行ができた。											
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況										
			24年度		25年度		26年度		27年度				
	・吹奏楽楽器の整備		目標	(中学校:27個)		(小学校:19個)		()		()			
			実績	中学校:27個		小学校:24個							
			目標	()		()		()		()			
		実績											
達成状況説明	・村の小学校に吹奏楽に必要な楽器(24個)を整備した。												
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)						
	古宇利ハーフマラソン、駅伝大会の開閉式、東ティモール児童との交流会等での演奏活動		目標	()	(中学校:27個)	演奏活動の実施	()	()					
			実績	/	中学校:27個	演奏活動の実施	/	/					
	[参考指標]		目標	()	()	()	()	()					
			実績	/				/					
進捗状況説明	・村の小学校に吹奏楽に必要な楽器(24個)を整備したことにより、25年度の村内の祭りやイベント等において、演奏活動を7回実施することができた。												

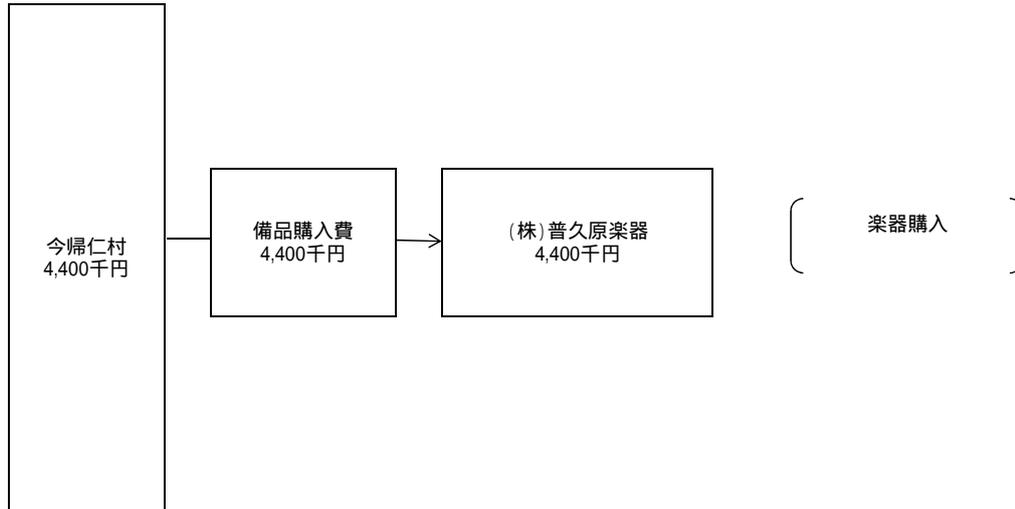
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・今回の事業で整備した楽器について、適切に管理する必要がある。</p>	<p>・今回整備した吹奏楽に必要な楽器(24個)をより多くの場面で、より有効に活用する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

・同小学校で吹奏楽に携わる児童等が、今回整備した楽器等を用いて、学校行事や村の祭り、スポーツイベントなど多くの場面で演奏活動を実施できるよう機会を設け、文化・教育等の推進につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,400	4,400	3,520	880	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

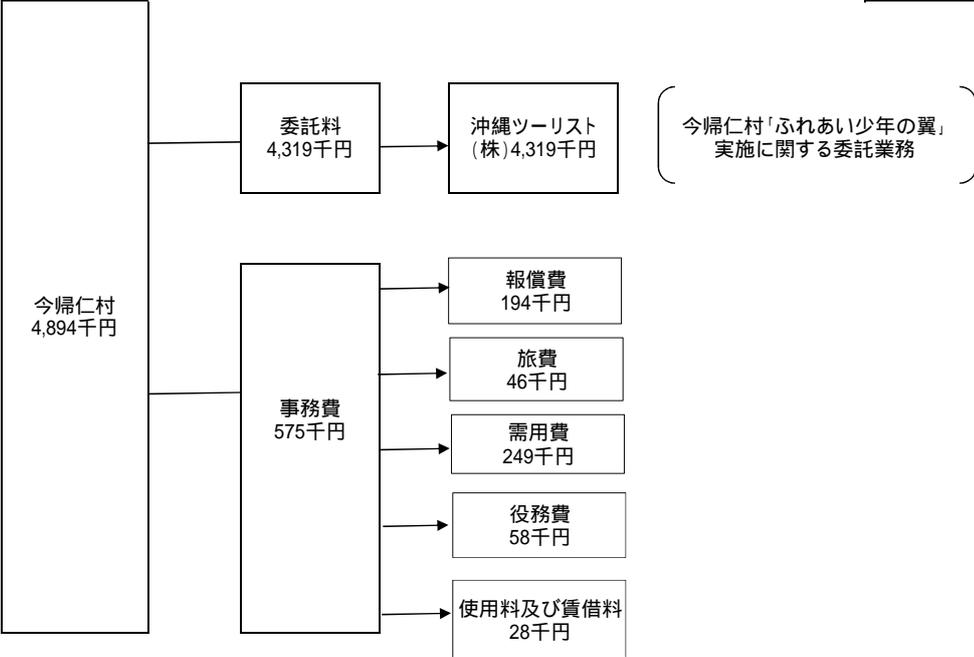
市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体をはぐむ教育の推進		
事業内容	小学生を対象に、山形県酒田市と将来の指導者育成の為、交流事業を行う。南国沖縄県にとって、本州の北に位置する東北地方はまさに「異文化」であり、異なる環境で生活している同年代との交流は子供達の視野の広がりや将来に向けて刺激を与えることができる。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,093	4,934			
		(b)予算現額	7,093	4,894			
		(c)増減額(b-a)	0	40			
		(d)繰越額	-	0			
		A.計(b+d)	7,093	4,894			
	B.執行済額	4,692	4,894				
	うち交付金充当額	3,753	3,915				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	66.1%	100.0%				
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	派遣生徒数:36人	目標	(36人)	(36人)	()	()	
		実績	36人	36人			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	悪天候のため1日目の宿泊地が酒田市から東京に変更した点以外は、6日間の事前研修を含む全行程を計画どおり実施した。参加者は、団員36人、引率者9人であった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	派遣後は、地域及び本村のジュニアリーダーの団員として活動 北山ていーだの会団員として「現代版組踊 北山の風」のメンバーとして活動	目標	(36人)	(36人)	()	()	(360)
		実績		36人	ジュニアリーダー及び「現代版組踊 北山の風」での活動の実施		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	参加者は、派遣後、地域や村のジュニアリーダーとしての活動を行ったほか、「北山ていーだの会」の団員として現代版組踊「北山の風」の創作活動等にも取り組んだ。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁村の歴史や文化について、参加者の理解をより深めるために、事前研修の日程を5日間から6日間に1日増やした。 ・本村の学校・地域・文化等のPRをより効果的に行うため、今帰仁村の紹介ビデオを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣1日目、荒天のため、宿泊地を酒田市から東京に急遽、変更した。この変更に伴い、参加者の体調管理に不安が生じたこともあり、次年度以降は、荒天時の対応も想定した上で、計画を策定する必要がある。

・荒天時の対応も想定し、計画を立案する。
 ・より効果的な今帰仁村のPR方法について検討する。
 ・H26年度以降も、これまでの計画を基本として、随時内容を検証し、必要に応じて計画を変更する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,894	4,894	3,915	979	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村
------	------

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 - 東ティモールと本村児童の交流推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 - (4) - ア
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 - 3 - (1)

事業内容
東ティモールの児童を招聘し、本村4小学校との交流で国際感覚を育成し、今後村としても人道的支援や姉妹校締結を目指し、交流を通して本村児童の人間性の育成や国際貢献できる人材の育成を図る。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 ('交付金'+ '市町村負担' ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	1,400	1,644		
		(b)予算現額		1,644		
		(c)増減額(b-a)	1,400	0		
		(d)繰越額	-	0		
		A.計(b+d)	0	1,644		
	B.執行済額			1,644		
	うち交付金充当額			1,315		
	次年度繰越額		0	0		
	執行率(%) (B/A)			100.0%		
	予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行ができた。			

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
受入児童数:4人、引率:2人	目標	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	()	()
	実績		受入児童数:2人 引率:3人		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	児童2人及び引率3人を招聘した。村内には4泊5日の滞在で、村内3小学校において交流会・交流学習・コンサートを行っている。交流学習では、習字を書いたり、カルタ取りをしたりして交流を深めることができた。また、コンサートの中で東ティモールの紹介等があり、平和の大切さや文化の違いを実感することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			()	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	()	()
	国際交流活動による海外からの受入者数 受入児童数:4人、引率:2人	目標	()	()	(受入児童数:4人 引率:2人)	()	()
		実績			受入児童数:2人 引率:3人		
	姉妹校の締結	目標	()	()	(姉妹校の締結)	()	()
実績				姉妹校の未締結			
進捗状況説明	児童2人及び引率3人を招聘し、本村3小学校の児童生徒等と交流活動を行った。具体的な交流活動としては、習字を書いたり、カルタ取りをしたり、体育の授業でサッカーをしたり、音楽の授業で歌を歌ったりといった交流学習を行った。今回は姉妹校の締結には至らなかった。しかし、今後も双方交流を続けながら、姉妹校の締結ができるように努力していきたい。						

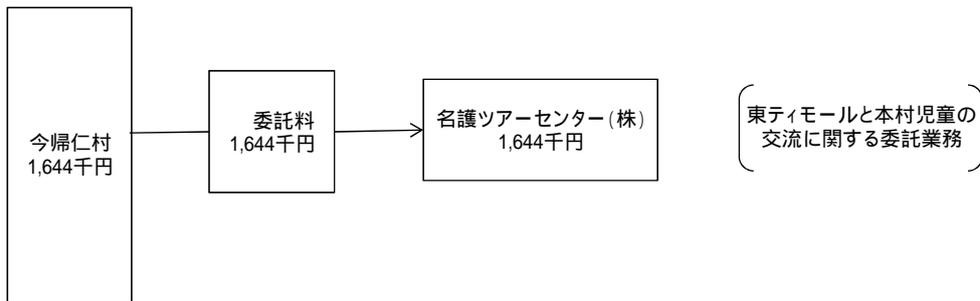
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・東ティモールからの移動日数も一週間程度かかることから児童の体調面の配慮も必要になっている。また、実際行きたくても経済的な問題から招聘する児童が減少することとなった。東ティモールでの児童生徒の選考を9月から10月の間に行い、児童2名以上を招聘したい。</p>	<p>・東ティモールから招聘する児童の選考については、体力的な観点から「6年生に該当する児童」としている点や経済的な問題等から2名の招聘となった。招聘する学生の選考について、弾力的に対応することで2名以上の児童を派遣できるよう目指したい。</p>

今後の取り組み方針

・国際感覚を育成するためにも、本村の児童生徒の派遣も視野に入れ人道的支援や交流を続けていきたい。
 ・今帰仁村においてホストファミリーと日常生活に過ごし、沖縄文化、今帰仁村の自然、東ティモールの文化を児童がそれぞれ披露しあい、書道、染色、三味線などの体験学習、体育、図画工作の事業への参加など、児童がお互いに教え合い、助け合いながら事業に参加し、「思いやりの心」「理解し合う心」を育てる。東ティモールとの交流により、小さく貧しい国に対しても目を向け、苦しみの中にいる人々にも手を差し伸べ、地球規模の物事を考えることのできる人材を育てる。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,644	1,644	1,315	329	



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	芸術家招聘事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成 -3-(1)	
事業内容	本村の小学校校歌の作詞者親族であるソプラノ歌手(講師)を村内の各学校に招聘し、コンサートと東ティモール支援に係る講演会を実施する事によって、本村児童と東ティモールの児童との交流を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 ('交付金'+ '市町村負担' ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	725	725			
		(b)予算現額		500			
		(c)増減額(b-a)	725	225			
		(d)繰越額	-	0			
		A.計(b+d)	0	500			
	B.執行済額			500			
	うち交付金充当額			400			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)			100.0%			
予算の状況の説明		旅程の変更に伴い、予算の減額が発生したが、予算の範囲内で適正な執行ができたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	公演会開催校	目標	()	(小学校2校)	()	()	
		実績		小学校3校			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	コンサート及び東ティモール支援のための講演会を小学校3校(3回)で開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	公演会に参加した児童生徒数	目標	()	()	(参加生徒数 462人)	()	()
		実績			参加生徒数 600人		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	コンサート及び東ティモール支援のための講演会を小学校3校(3回)で開催し、600人の生徒が参加した。					

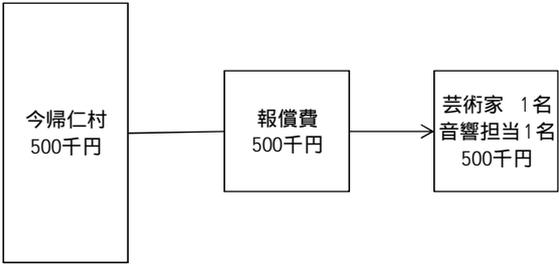
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・東ティモールと本村児童の交流推進事業(2)の活動内容や招聘した児童の帰国後の様子等について、講演会の中で報告を行っている。</p>	<p>・東ティモール児童との交流会や帰国後の報告等を、現地及び日本や沖縄の歌等をソプラノで歌ってもらっているが、吹奏楽部との合同演奏や校歌等の合唱等でさらに充実させていきたい。今後は東ティモールと本村児童の交流推進事業とひとつにして実施する方向で検討する。</p>

今後の取り組み方針

・東ティモールの児童との交流等を通して、本村児童生徒が国際感覚を醸成し、平和の大切さ等について理解を深めることができるよう、講演会やコンサートの内容を工夫し、交流活動を継続して実施したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
500	500	400	100	



資金の流れ、費目、用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	未来を担う人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進 - 3 - (1)	
事業内容	国公立大学に特化した大学進学講座を実施し、進学実績の向上と地域に根ざした特色ある学校づくりの観点から地域教育資源を活用し学力向上と地域の活性化を目指す。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	775	2,002			
		(b)予算現額	775	924			
		(c)増減額(b-a)	0	1,078			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	775	924			
	B.執行済額	90	924				
	うち交付金充当額	72	739				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	11.6%	100.0%				
予算の状況の説明	当初予算額は週5日で積算し計上したが、週3日の実施となったため、1,078千円の減額となった。しかし予算の範囲内で適正な執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	講座参加人数:16名	目標	(16名)	(16名)	()	()	
		実績	16名	9名			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平成25年6月から講座が始まり、週3日で火曜日は1クール90分の2クール、水曜日も同様。土曜日は3クールを実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 講座参加人数は目標の16名は、実績では9名であった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	講座参加人数:16名 講座参加者16人中・国公立大学合格者8人(50%)	目標	()	(16名)	(16名 50%)	()	()
		実績		16名	9名 67%(9名中6名)		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成25年6月から講座が始まり、週3日で火曜日は1クール90分の2クール、水曜日も同様。土曜日は3クールを実施。夏・冬休み期間中も同様実施した。 講座参加人数16名中の50%の合格率であったが、実績では9名で6名(67%)の合格であった。					

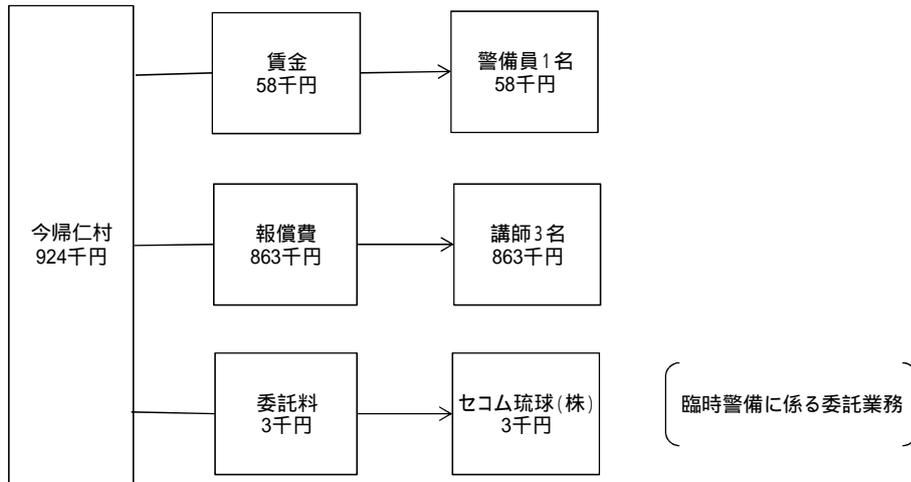
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・年度の早い時期から講師の選定及び依頼を進めると共に、地域・行政・学校が一体となって、生徒へのピーアール及び募集等の啓蒙活動に取り組む必要がある。</p>	<p>・国公立にこだわらず私立や専門学校等も含めて進学率を向上に努める。また、スケジュールやカリキュラム内容等を検証し、より資の高い講座を実施できるように努める。</p>

今後の取り組み方針

・今後は、地域コーディネーター等に依頼し、早い時期から講師の選定及び講義の実施を行う。また、講座開催について住民に十分周知し、参加者の増員を図るとともに、授業の充実を図り、合格率の向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
924	924	739	185	0



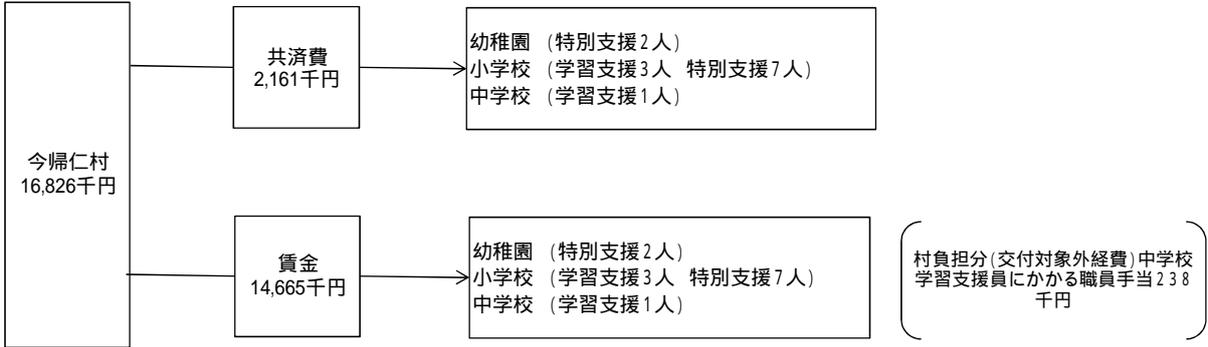
資金の流れ、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費用・使用については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使用が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	学習支援者配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	学力向上のための学習支援員や、障害のある園児・児童生徒(多動性や情緒も含む)のための特別を支援員等を配置し、授業にあたる教師と連携を図りながら支援を行うことで教育環境を充実させる。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		17,263			
		(b)予算現額		16,826			
		(c)増減額(b-a)		437			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		16,826			
	B.執行済額		16,826				
	うち交付金充当額		13,460				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習支援者配置人数 ・幼稚園(学)0人(特)2人 ・小学校(学)3人(特)6人 ・中学校(学)1人(特)0人	目標		幼(学)0人(特)2人 (小(学)3人(特)6人) 中(学)1人(特)0人	()	()	
		実績		幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)0人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	村内小中学校、幼稚園に学習(特別)支援員を配置し、教師と連携して子どもたちの困り感を解消するための支援を行っている。特に学習支援員を配置したことで、放課後や長期休暇でも学習する場ができるようになった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	学習支援者配置人数 ・幼稚園(学)0人(特)2人 ・小学校(学)3人(特)6人 ・中学校(学)1人(特)0人	目標	()		幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)6人 中(学)1人(特)0人	()	()
		実績			幼(学)0人(特)2人 小(学)3人(特)7人 中(学)1人(特)0人		
	学力や学習意欲の向上 ・村内の幼稚園・小学校・中学校への支援員配置率100%	目標	()		学力や学習意欲の向上 ・100%	()	()
		実績			学力や学習意欲の向上が図られた。 ・100%		
	進捗状況説明	学習支援員は授業での支援だけにとどまらず、放課後や児童の長期休暇の際でも学習する場が提供できるようにと「学び室」(今小)や「がじゅまる教室」(天小)でも活用されており、利用者も増えている。今後は、未開設の学校でも開設して学習支援員を活用させる方針である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・困り感を持つ児童生徒、支援が必要であると判断される子どもの数は増加の一途をたどり、学校現場や保護者からは支援員の増加を要望されている。</p>	<p>・今後人員増の視野に入れてはいるが、ただ支援員を増やすだけで児童生徒の困り感が解消するという単純な結論ではなく、支援員の質の向上をさせることで個々の児童生徒に対する処理能力を上げていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・教師や親からの情報により「困り感」を持つ児童生徒を把握し、勉強や学校生活への支援に必要な人員配置に努める。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
17,064	16,826	13,460	3,366	238



資金の流れ、費目、用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支援員については、履歴書を提出してもらい面接にて決定している。更に学習支援員においては、「教員免許の所持」を条件としてさだめており、適切かつ妥当な選定である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	中学生海外語学留学支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育推進 -3-(1)	
事業内容	英語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、「今帰仁村」の将来を担う、国際感覚豊かな人材育成のため、本村今帰仁中学校に在学する中学校3人及び北山高等学校に在学する本村出身高校生2人を対象に、夏季休学中にアメリカ(ハワイ2週間・シアトル4週間)で学習する機会を与え、世界に羽ばたく人材を育成する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		1,992			
		(b)予算現額		1,979			
		(c)増減額(b-a)		13			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		1,979			
	B.執行済額		1,979				
	うち交付金充当額		1,583				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	留学生徒数 ・中学生:3人 ・高校生:2人	目標	()	(中学生:3人 高校生:2人)	()	()	
		実績		中学生:3人 高校生:2人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	留学生徒数 中学生:3人 高校生:2人を派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	古宇利ハーフマラソン等で外国人選手との通訳ボランティア活動	目標	()	()	通訳ボランティア活動の実施	()	()
		実績			通訳ボランティア活動の未実施		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	4月に開催した古宇利ハーフマラソンでは、前年度の研修生が高校を卒業しており、通訳ボランティアを実施することができなかった。					

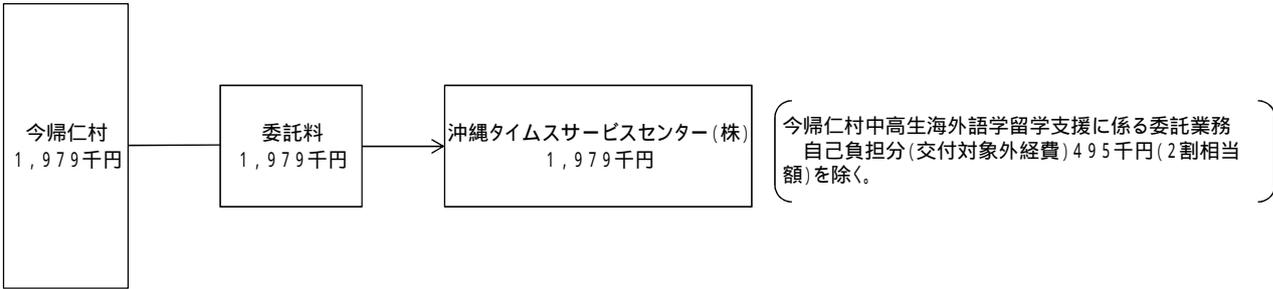
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今後は、1年生～2年生を優先して研修に参加してもらう。</p>	<p>・1年生～2年生を参加させることにより、翌年度4月に開催される古宇利ハーフマラソンへのボランティア参加が容易になる。</p>

今後の取り組み方針

・平成25年度においては、留学生徒は目標どおり中学生3人、高校生2人と実施できたが、外国人との通訳ボランティア活動が実施できなかった状況である。今後は、地元に残る中・高校生の1年～2年生を主体に留学生の対象として実施をしていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,474	1,979	1,583	396	495



資金の 用途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認適正であった。 総事業費の2割相当額(495千円)を自己負担(交付対象外経費)として計上している。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村										
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2 - 児童生徒等の県外派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-ア							
	担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度 平成25年度～33年度		教育機会の拡充						
				沖縄振興基本方針該当箇所		-3-(1)						
事業内容		小・中学校の児童生徒や県立高等学校の生徒が、県外で開催される各種スポーツ大会や文化関係大会に参加する際の派遣費用を補助する。										
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
		(a)当初予算額			2,200							
	(b)予算現額			2,045								
	(c)増減額(b-a)			155								
	(d)繰越額			-								
	A.計(b+d)			2,045								
	B.執行済額			2,045								
	うち交付金充当額			1,636								
	次年度繰越額			0								
	執行率(%) (B/A)			100.0%								
予算の状況の説明		平成26年1月に補助金申請状況を考慮し減額を行うことで、予算内での適正な執行ができた。										
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況									
			24年度		25年度		26年度		27年度			
	県外少年団野球大会(派遣人数) 県外スポーツ大会(派遣人数)	目標	()		20人 156人		()		()			
		実績			19人 99人							
	県外・国外文化交流事業(派遣人数)	目標	()	()	18人	()	()	()	()	()		
		実績			0人							
達成状況説明		県外少年団野球大会は1団体補助で派遣者19人、県外スポーツ大会は12団体補助で派遣者99人、県外・国外文化交流事業は申請団体は0であった。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)		24年度		25年度		26年度		目標値(年度)	
	県外少年団野球大会(派遣人数) 県外スポーツ大会(派遣人数)	目標	()	()		20人 156人		()		()		()
		実績				19人 99人						
	県外・国外文化交流事業(派遣人数)	目標	()	()		18人	()	()	()	()	()	()
		実績				18人						
	進捗状況説明		県外少年団野球大会は1団体補助で派遣者19人、県外スポーツ大会は12団体補助で派遣者99人、県外・国外文化交流事業は申請団体は0であった。 県外スポーツ派遣の減は、中学生の(駅伝・卓球等)派遣がなかった為である。また県外・国外文化交流も派遣交流がなかった為である。									

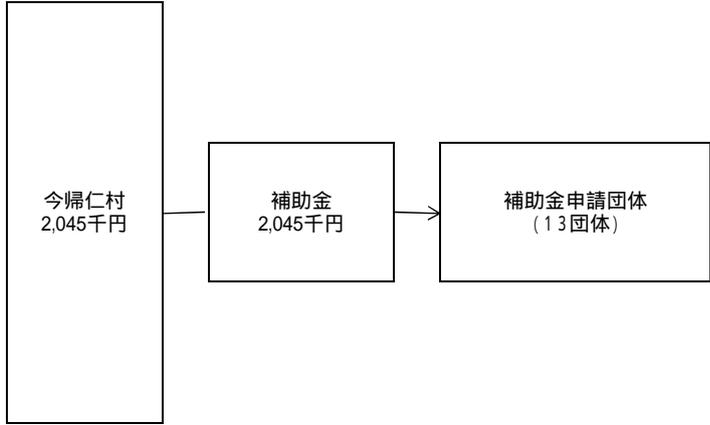
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒等の県外派遣事業は、平成25年度がスタートの年であり、手続き等及び説明に戸惑う申請者がいた。 ・24年度と比較して、中学生の派遣(卓球・駅伝)及び県外等との文化交流実績が無かったことから、目標を下回る実績となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降は、申請のやり方や申請費用等について十分説明し、申請手続を円滑に進めたい。また、小学校・中学校・高校の教師及び地域村民と連携し、派遣事業の把握に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・児童生徒等の県外派遣事業の推進により、遠征費の負担軽減が図られることから有効な支援策だと考えている。今後は、小学校・中学校・高校・地域団体への周知を図り、その活動実績等を正確に把握するとともに、派遣対象を適正に審査し、継続して事業を実施したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,836	2,045	1,636	409	791



小・中学校の児童生徒や県立高等学校の生徒が、県外で開催される各種スポーツ大会や文化関係大会に参加する際の派遣費補助金
先島大会(4団体)への派遣については、村単独で補助したことから、交付対象外経費(791千円)として計上した。

資金の流れ、費目、用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村										
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	3 -		環境保全美化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ						
	担当部課名	福祉保健課 経済課 建設課 教育委員会		平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備						
事業内容	本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、観光客受け入れ体制を整える。											
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()											
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
		(a)当初予算額	28,333	50,120								
	(b)予算現額	28,333	48,672									
	(c)増減額(b-a)	0	1,448									
	(d)繰越額	-	-									
	A.計(b+d)	28,333	48,672									
	B.執行済額	25,282	48,672									
	うち交付金充当額	20,226	38,937									
	次年度繰越額	0	0									
	執行率(%) (B/A)	89.2%	100.0%									
予算の状況の説明		荒天のため一部事業を実施できない日があったので1,448千円の不用額が発生したが、予算の範囲内で適正な執行ができたと考えている。										
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況									
			24年度		25年度		26年度		27年度			
	今帰仁城跡及び観光地の美化 美化した観光ルートの路線数		目標	(27路線)	(27路線)	()	()					
			実績	27路線実施	27路線実施							
			目標	()	()	()	()					
			実績									
達成状況説明		・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。 ・不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の活動として、ハブ捕獲器設置、野犬捕獲器設置、不法投棄のパトロールや投棄物の回収や不法投棄防止看板設置等により、事業を幅広く実施することができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)		24年度		25年度		26年度		目標値(年度)	
			目標	()	(27路線)	(27路線)	()	()				
	今帰仁城跡及び観光地の美化 快適な観光アクセスルートの整備		実績		27路線実施	27路線実施						
	[参考指標]		目標	()	()	()	()	()				
			実績									
	進捗状況説明		・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。 ・不法投棄のパトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野良犬捕獲等の活動として、ハブ捕獲器設置及び巡回、野良犬捕獲器設置及び巡回、不法投棄のパトロールや投棄物の処理、不法投棄防止看板設置等により、事業を強化することができた。									

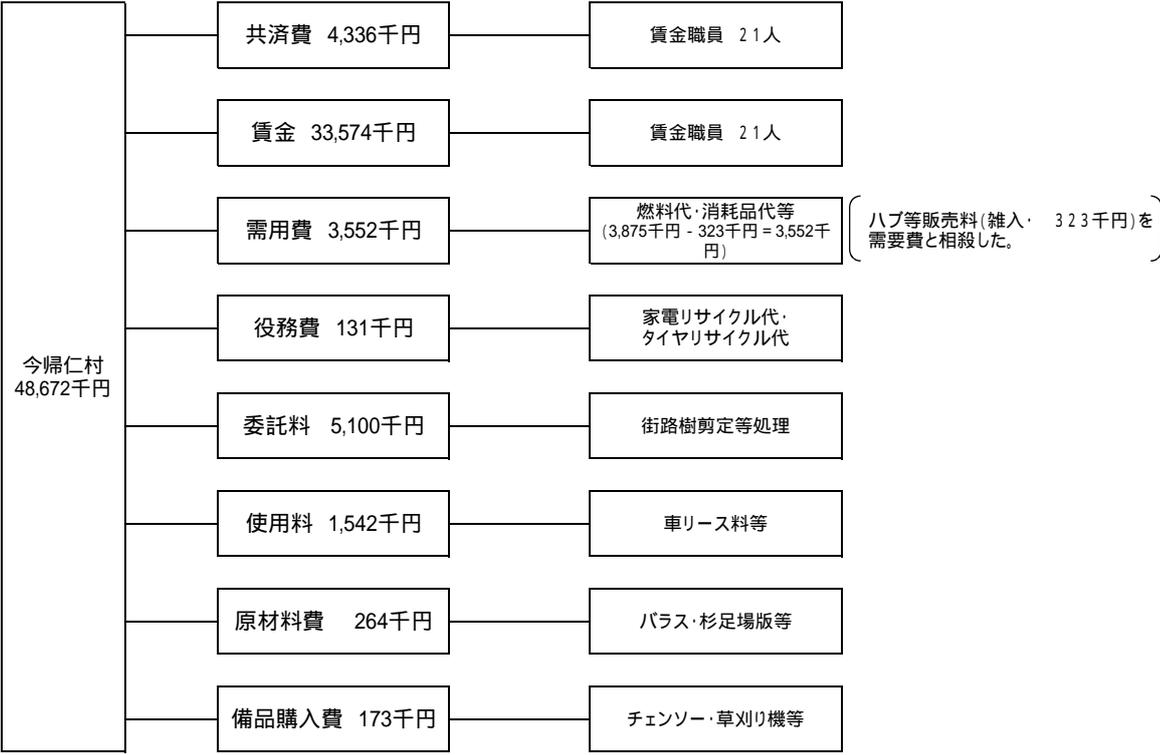
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本村の観光拠点となっている世界遺産今帰仁城跡や観光地及び観光ルートの美化を実施し、快適な観光客の受入ができた。しかし、今帰仁城跡ガイドによる観光客等案内文化財の見学ルートにおいて沖縄の気候条件で美化整備が必要な箇所があり課題となっている。</p>	<p>・本村の観光拠点となっている今帰仁城跡や乙羽岳森林公園やウッパマビーチ等の観光地及び観光ルートの美化を実施し快適な観光客の受入ができた。しかし美化ができなかった観光地や観光ルートがあるので次年度以降も継続して美化を実施し、観光客受入を整えたい。</p>

今後の取り組み方針

・タイワンハブをはじめ、外来生物や危険生物の駆除や、不法投棄のパトロール、投棄物の回収・処理をすることにより、本村の自然・環境を保ち、観光の村として、環境美化にいつもの取り組みをする。本村の観光拠点等の不法投棄パトロール、投棄物処理、ハブ駆除対策、野犬捕獲等の事業を、2年度目以降も継続して実施することにより、深くできなかった分を次年度以降も継続して、より深く実施したい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
48,672	48,672	38,937	9,735	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	<p>使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3 - 風景づくり推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-ア			
	担当部課名	建設課		事業実施(予定)年度 平成24～28年度		沖縄らしい風景づくり		
				沖縄振興基本方針該当箇所		-1-(1)		
事業内容							・今帰仁村らしい景観を保全・継承し、さらに発展させていく景観計画の策定、その実施に向けた推進体制を行政・住民・事業者で構築して、地域振興にも寄与する景観計画を策定後、地域住民の意思を反映させながらその内容をより一層推進していく。	
実施方法							直接実施 委託 補助 負担 その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額		3,850	4,281			
		(b)予算現額		3,850	4,035			
		(c)増減額(b-a)		0	246			
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)			3,850	4,035		
		B.執行済額			3,570	4,035		
		うち交付金充当額			2,856	3,228		
		次年度繰越額			0	0		
		執行率(%) (B/A)			92.7%	100.0%		
予算の状況の説明							・予算の範囲内で適正な執行ができた。	
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
	・景観向上行動計画の策定	目標	(景観計画策定)	(景観向上行動計画の策定)	()	()		
		実績	景観計画策定	景観向上行動計画の作成				
		目標	()	()	()	()		
		実績						
	達成状況説明							・「今帰仁村景観計画」において景観形成重点地区と位置づけられた地域から、今泊地区をモデル地区として、地域住民の意向を反映させながら、地区における景観形成に係るハード及びソフト事業に関する行動計画の策定に至った。
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	・景観条例の施行	目標	()	(条例の制定)	(景観条例の施行)	()	()	
		実績		条例制定の実施	景観条例の施行			
	[参考指標] 景観計画(原案)		目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明							・今泊地区における景観構成要素の分布状況や集落構造など、景観形成に関する詳細調査を実施。良好な景観形成に向けた問題や今後地域で進めていくべき施策、事業等について話し合うワークショップを開催し、その結果を含め景観向上を図るための取り組みを示した行動計画の作成に至った。 ・今帰仁村景観条例を平成25年9月30日に施行した。

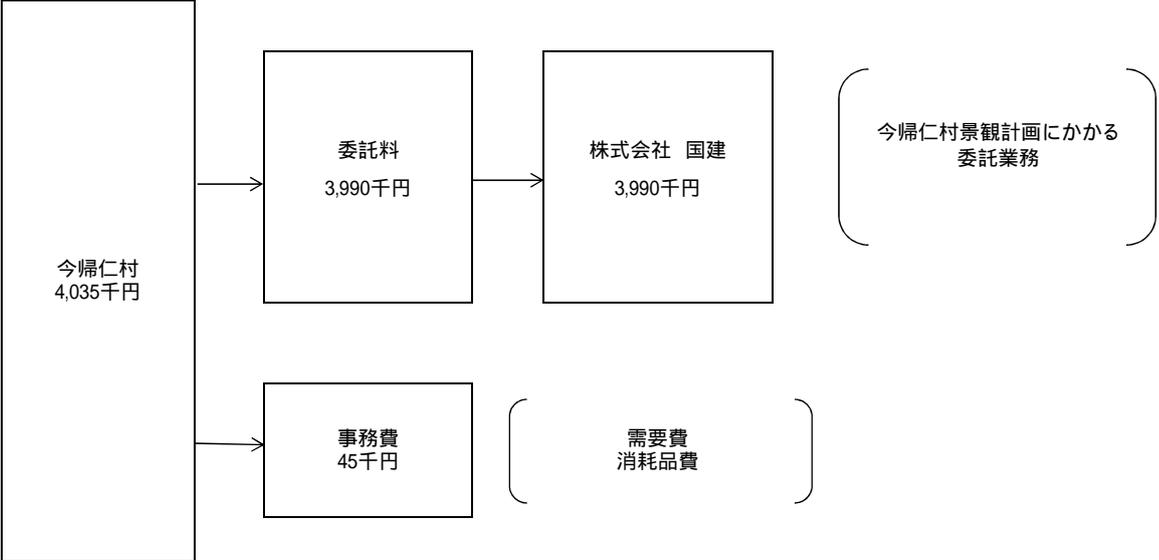
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民個々の景観資源に対する重要性や意識の隔たりが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等の意識醸成のため地域住民の意向を反映させながら地域むらづくり推進体制を確立させる。

今後の取り組み方針

・行動計画に位置付けられた地域で進めていくべき施策、事業の実現化を図るため、プロジェクトチームを設置し、事業メニューを検討する。また今泊における地域づくり推進体制の構築を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,035	4,035	3,228	807	



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	観光力基盤強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	経済課 総務課 教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄ブランドの確立	
事業内容	今帰仁村の観光地としての知名度アップを図るため、「現代版組踊 北山の風」などのイベントを実施する。また、今帰仁村総合運動公園を高校駅伝やハーフマラソンの拠点とすることで、民泊事業の導入拡大を図り、村観光協会と連携し、観光関連産業の活性化につなげる。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	31,514	25,550			
		(b)予算現額	31,514	29,374			
		(c)増減額(b-a)	0	3,824			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	31,514	29,374			
	B.執行済額	31,417	29,374				
	うち交付金充当額	25,134	23,499				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	99.7%	100.0%				
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した他、成果目標の達成状況を鑑み適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	現代版組踊 北山の風の開催、イベントの開催支援	目標	(4回講演)	(イベント開催の支援)	()	()	
		実績	4回実施	イベントの実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り。総合まつり、今帰仁ハーリーは計画通り実施及び開催ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	北山の風 イベント開催数 古宇利ハーフマラソン参加者数 今帰仁城跡ライトアップ・さくら祭り 来場者数	目標	()	4回	3回 (村内1 村外2) 2,500人 39,000人	()	()
		実績		4回	3回 (村内1 村外2) 2,927人 39,400人		
	今帰仁村総合まつり来場者数 今帰仁ハーリー大会出場チーム数	目標	()		8,000人 60チーム	()	()
		実績			9,000人 64チーム		
	進捗状況説明	現代版組踊、古宇利ハーフマラソン、さくら祭り、総合まつり、今帰仁ハーリーについては、計画通り実施及び開催ができた。また、成果目標を上回る参加者数であった。					

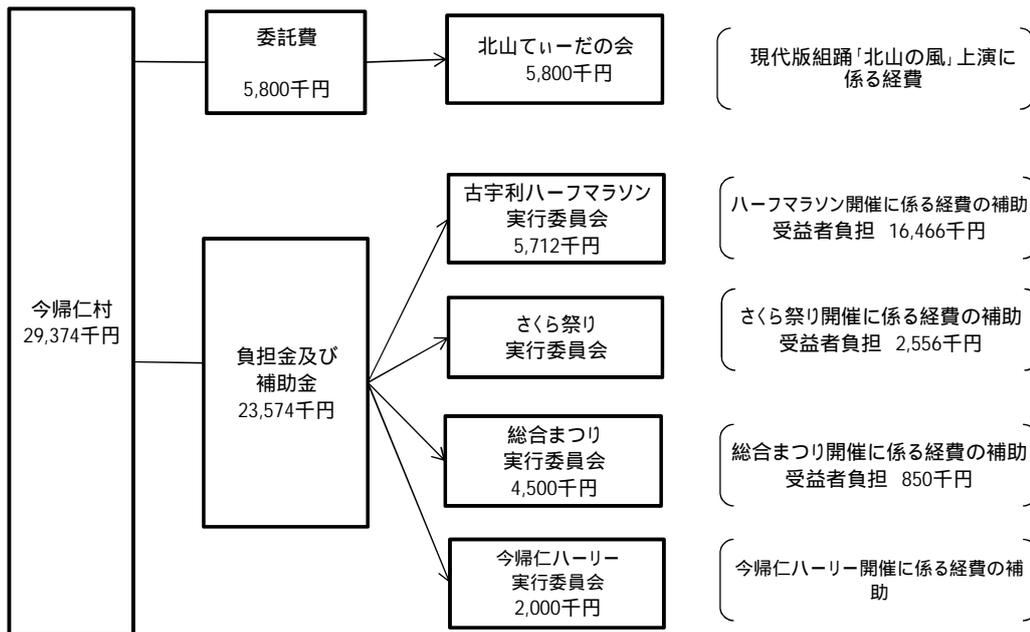
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 古宇利マジックアワーRUNは今大会、天気にも恵まれ、申込者は目標数値の854人増の3,354人であった。 今帰仁村総合まつりは、FMとよみの「おでかけスタジオ」を開催するにあたり、まつり開催前の番組の中で告知を重ねることができ、宣伝効果が図られた。 今帰仁ハーリーを観光ハーリーとしてリニューアルし多くの観光客がきていただき、計画通り実施ができた。 今帰仁グスク桜まつりは桜の開花の状況もよく、またイベントの数を増やすことによって、目標達成することができた。 上演する高校生・中学生の演技力の向上が図られるなか、村内隣接市町村での公演だけではなく、那覇圏域等での公演を行いなお一層の観光地として知名度アップを図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者も徐々にではあるが増えつつあるので、なお一層の知名度アップにつながる企画の工夫を行い、将来的には5,000人のマラソンを目指し、自主運営を達成していきたい。 総合まつりは、外国や県外の参加者も見られたことから、地元色のあるまつりが喜ばれることがわかった。しかし、今後は来村者からリピーターにつながる努力を行わなければならない。 海外の観光客が増えているので、多言語表示等の対応をし更なる観光客の誘客の増大を図っていきたい。

今後の取り組み方針

・「北山の風」は現在、今帰仁村を中心に隣接市町村で公演を行っているが、公演する場所を那覇市等の都市地区で公演をすることにより、今帰仁村の観光地としての知名度アップを図ってきたい。
 ・今帰仁村総合まつりを今後、より充実したまつりに資するため、予算の確保にも努め、全て無料ではなく受益者負担も念頭におきながら実施を行っていく。
 ・観光客の体験ハーリー等の参加者をもっと増やすことなど次年度以降も継続し、観光客誘致につなげる。
 ・今帰仁グスク桜まつりは、世界遺産「今帰仁城跡」で長期にわたる夜間ライトアップイベントであるため、観光客等をライトアップを見て1日限りで帰すのではなく、村内に宿泊滞在をしてもらえるようなイベントの工夫を行い、村の観光振興につなげていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
29,374	29,374	23,499	5,875	0



資金の流 れ、費 用、 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	現代版組踊「北山の風」の上演について、「北山ていでだの会」と随意契約を締結した。 費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 補助金については、各実行委員会において、事業費の一部を負担しており、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費用・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 今帰仁村

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (3 - 観光地安全強化事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章 - 3 - (2) - ウ), 担当部課名 (教育委員会 社会教育課), 事業実施(予定)年度 (平成24年度～33年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (観光客の受入体制の整備), 番号 (- 1 - (1))

事業内容: 主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。

実施方法: 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

Table with 7 columns: 24年度, 25年度, 26年度, 27年度, 28年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円), うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率(%) (B/A), 予算の状況の説明 (不要額が180千円発生しているが、入札残によるものである。)

Table with 5 columns: 24年度, 25年度, 26年度, 27年度. Rows include: 活動目標(指標)及び達成状況 (今帰仁城跡来訪者安全対策), 達成状況説明 (世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。)

Table with 7 columns: 基準値(23年度), 24年度, 25年度, 26年度, 目標値(27年度). Rows include: 成果目標(指標)及び進捗状況 (今帰仁城跡来訪者の安全の確保), 進捗状況説明 (世界遺産今帰仁城跡は年間を通じて国内外から多くの観光客が訪れている。)

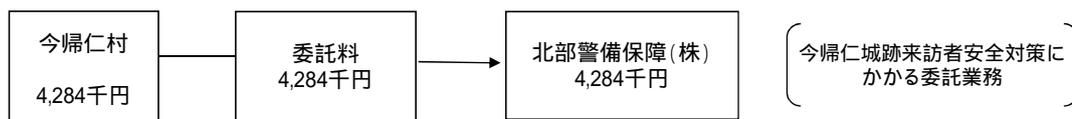
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置する。しかし、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど多くの観光客等が訪れており更なる安全対策が課題である。</p>	<p>・世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど安全対策が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・主要観光地である世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全の確保を図るため、イベント時に、車両の誘導及び駐車場、横断歩道等に交通誘導員を配置することで、城跡の安全安心をより一層発信することができ更にリピータに期待し、継続して行きたい。また、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィークなど更なる世界遺産今帰仁城跡を訪れる観光客の安全安心の確保強化に取り組む必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,284	4,284	3,427	857	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	今帰仁村総合運動公園施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ	
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 -1-(1)	
事業内容	「スポーツ交流むら」は天然芝グラウンド、温水プール、クラブハウスなどが集積され、各種大会、合宿、キャンプ地として高い評価を受けている。しかしながら、夜間照明の改善による夜間トレーニングへの対応や、故障者のコンディショニングへの対応、駐車場等の整備などの課題を抱えており、課題解決のための機能強化を推進する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,500	-	55,000		
		(b)予算現額	14,700	-	55,145		
		(c)増減額(b-a)	-800	-	145		
		(d)繰越額	-	10,290	-		
		A.計(b+d)	14,700	10,290	55,145		
	B.執行済額		4,410	10,290	55,145		
	うち交付金充当額		3,528	8,232	44,116		
	次年度繰越額		10,290	0	0		
	執行率(%) (B/A)		30.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		事業費については、145千円の補正を行い適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	今帰仁村総合運動公園照明設備改修工事・サブグラウンド及びホッケー場	目標	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事	()	()	
		実績	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の実施			
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明		サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事を計画どおり執行した。 平成26年4月19日に本施設を発着で行われた第4回古宇利マジックアワーRAN大会(ハーフマラソン・11kmロードレース)では、レース終了の夕暮れ以降の、クールダウン会場として照明設備改修されたホッケー会場とサブグラウンドが使用された。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	今帰仁村総合運動公園照明設備改修工事・サブグラウンド及びホッケー場	目標	()	運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事	()	()
		実績		運動公園機能強化に係る基本計画策定	サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の実施		
			目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明		サブグラウンド及びホッケー場の照明設備改修工事の投光機を経済性や環境に配慮しLED製品を採用し執行した。				

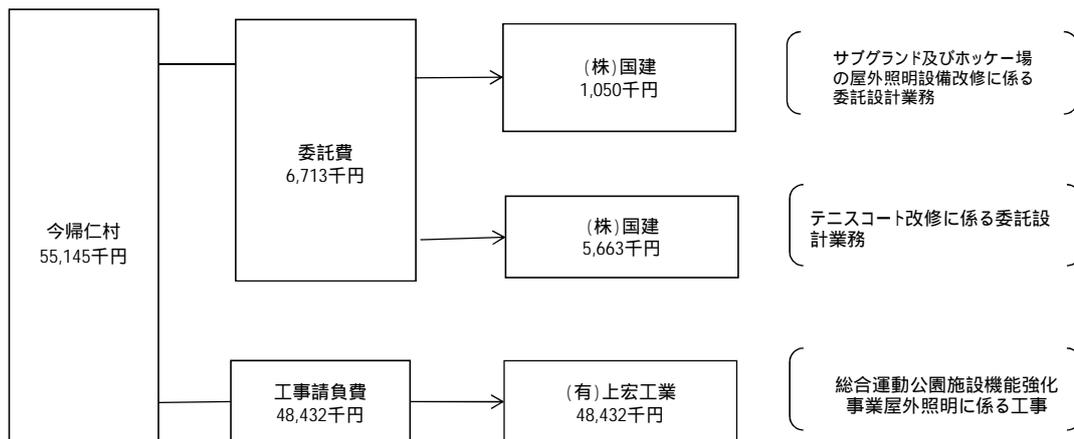
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・サブグラウンド及びホッケー場設備照明の使用頻度の向上	・ゴールデンウィークや夏休みの日中の暑い時期の村外利用の増える時期において、夕暮れ以降の過ごしやすい時間帯でのウォーキング・ジョギングや軽スポーツの推進に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・運動公園の利用頻度が向上する施設機能強化事業として、村外利用者の合宿等の受入数及びリピーターの増加を当事業の主眼として捉えることで、合宿・キャンプを目的とした利用者の技術の向上や健康増進を定着させることで、施設利用による交流人口の増加によって観光産業に付随した地域活性化となるよう合宿・キャンプ誘致の活動を推進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
55,145	55,145	44,116	11,029	0



資金の流 れ、費 目 ・ 使 途 の 流 れ ・ 費 目 ・ 使 途 の 流 れ ・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、適切に執行した。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	バンガロー機能強化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (2) - ウ	
担当部課名	経済課	事業実施(予定)年度	平成24年度～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備	
事業内容	今帰仁村森林公園のバンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化を図り、観光客・村民の観光拠点施設としての基盤強化を図る。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,166	16,350			
		(b)予算現額	4,166	11,690			
		(c)増減額(b-a)	0	4,660			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	4,166	11,690			
	B.執行済額	4,166	11,690				
	うち交付金充当額	3,333	9,352				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	不用額が4,660千円発生しているが、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	遊歩道整備の実施	目標	バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化	遊歩道整備の実施	()	()	
		実績	バンガロー・キャンプ場宿泊施設の機能強化が図られた。	遊歩道整備の完成			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	乙羽岳森林公園内の遊歩道工事を実施に伴い、観光客、村民の観光拠点としての基盤強化が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	遊歩道整備の完成	目標	()	宿泊施設の機能強化	遊歩道整備の完成	()	()
		実績		宿泊施設の機能強化(完成)	遊歩道整備の完成		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	乙羽岳森林公園内の遊歩道工事を実施に伴い、観光客、村民の観光拠点としての基盤強化が図られた。					

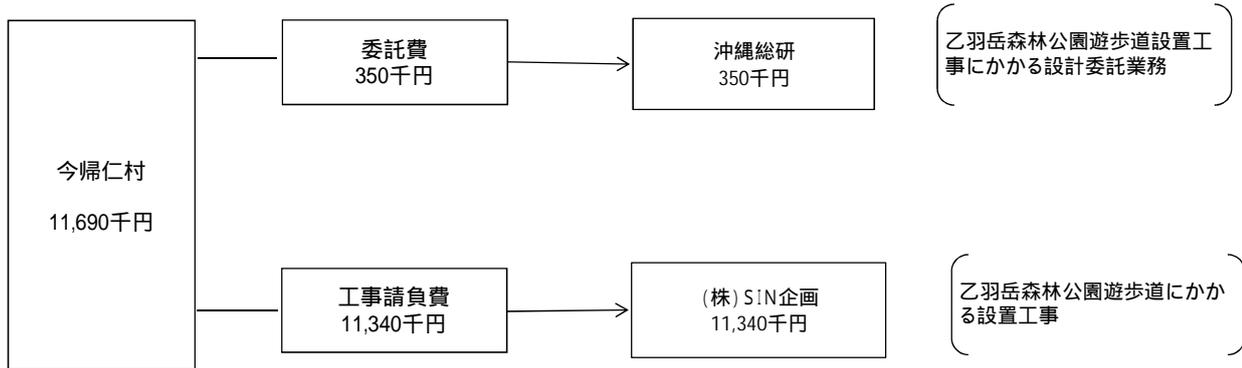
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・遊歩道の設置により利用者数が増え、ゴミや稀少な動植物の違法な採取等周辺の自然環境に十分配慮した施設管理が必要となってくる。また、遊歩道における事故などの場合において、適切な処置ができるようにする必要がある。</p>	<p>・遊歩道において管理スタッフによる自然環境に配慮した定期的な監視を行い、森林浴、野鳥観察等が楽しめるようにイベントなども開催し、村民の憩いの場、観光の拠点としても基盤強化を図る。また、安全管理においても有資格者による適切な処置や緊急時における連絡体制を整える。</p>

今後の取り組み方針

・乙羽森林公園施設利用者に常に安全・快適に利用して頂くために、森林景観維持管理の知識と技術がある人材を配置しました。森林浴、野鳥観察等が楽しめる自然体験学習の場としても、自然環境を保全しつつ観光においても情報を発信し観光拠点としての推進を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
11,690	11,690	9,352	2,338	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>工事業者は、指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	観光拠点整備強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (2) - ウ	
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備	
事業内容	・今年度建設予定のワルミ大橋活性化施設(仮称)の建築に伴う観光案内板を設置し、北部観光資源を結ぶ周遊ルートの拠点化を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	55,553	5,000			
		(b)予算現額	55,553	5,040			
		(c)増減額(b-a)	0	40			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	55,553	5,040			
	B.執行済額	49,385	5,040				
	うち交付金充当額	39,508	4,032				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	88.9%	100.0%				
予算の状況の説明	・予算内での適正な執行ができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
	観光案内板の設置	目標	(太陽光発電システム導入、駐車場整備の実施)	(2箇所)	()	()	
		実績	太陽光発電システムの完成、駐車場整備完了	3箇所			
		目標	(備品整備用地取得)	()	()	()	
		実績	備品整備完了、用地取得完了				
	達成状況説明	・観光案内板を設置することで、村内中心部からワルミ大橋及び古宇利大橋への観光ルートを来客者へ周知させることができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	観光案内板の設置	目標	/	(太陽光発電システム、駐車場整備の実施)	(2箇所)	()	()
		実績	/	太陽光発電システムの完成、駐車場整備完了	3箇所		/
		目標	()	(備品整備用地取得)	()	()	()
		実績	/	備品整備完了、用地取得完了			/
	進捗状況説明	・平成25年度において、観光案内板を3箇所設置することで村内観光周遊ルートを来客者へ周知させ、目標を達成することができた。					

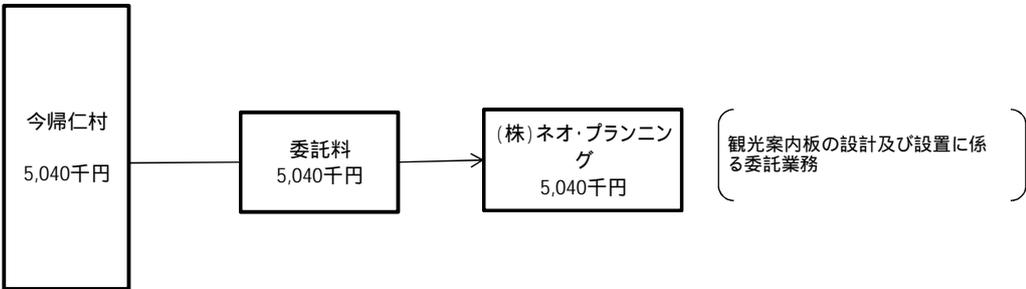
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・平成25年度は、村内外からの来客者へ観光ルートを周知させる、主要観光地である世界遺産今帰仁城跡、ワルミ大橋、古宇利大橋を訪れる観光客への案内を推進するため、車輛の視線誘導を目的とする。しかし、イベント時に限らず土、日曜日、公休日など連休及びゴールデンウィーク等多くの観光客が訪れており更なる目的地への誘導が必要である。</p>	<p>・平成25年度は、主要観光地である世界遺産今帰仁城跡、ワルミ大橋、古宇利大橋の周遊ルートを訪れる観光客への案内を推進するため、車輛の視線誘導を目的とする案内板設置箇所の現地調査を行い、観光客からの目線で案内板が効率的に活用される場所選定を図る。</p>

今後の取り組み方針

・活性化(リカワルミ)の運営会社と役場が連携を図り、メディアを通じ広報活動を行う。
 ・世界遺産今帰仁城跡等を含めた、周遊ルートを訪れる観光客への案内を推進するため、案内板を活用して車両を誘導していきたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,040	5,040	4,032	1,008	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村										
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	3 - 今帰仁城跡駐車場安全強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (2) - ウ							
	担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備						
事業内容	・世界遺産今帰仁城跡の駐車場をアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る。											
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他											
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
		(a)当初予算額	25,725	30,790								
		(b)予算現額	14,700	23,835								
		(c)増減額(b-a)	-11,025	6,955								
		(d)繰越額	-	-								
		A.計(b+d)	14,700	23,835								
		B.執行済額	14,700	23,835								
		うち交付金充当額	11,760	19,068								
		次年度繰越額	0	0								
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%								
予算の状況の説明		・入札残により6,955千円の不用額が発生しているが、予算の範囲内で適正な執行ができたと考えている。										
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況									
			24年度		25年度		26年度		27年度			
	・今帰仁城跡駐車場のアスファルト舗装工事	目標	(駐車場のアスファルト舗装及び安全対策整備)	(駐車場アスファルト舗装工事)	()	()	()	()	()	()	()	
		実績	駐車場のアスファルト舗装整備実施	駐車場アスファルト舗装工事の実施								
		目標	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
		実績										
達成状況説明		・世界遺産今帰仁城跡の第3駐車場をアスファルト舗装等、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る事ができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)		24年度		25年度		26年度		目標値(27年度)	
	・今帰仁城跡駐車場のアスファルト舗装工事の完了	目標	()	(駐車場のアスファルト舗装等整備)	(駐車場アスファルト舗装工事の完了)	()	()	()	()	()	()	()
		実績		駐車場のアスファルト舗装等整備実施	駐車場アスファルト舗装工事の完了							
	・乗用車駐車場:80台	目標	()	()	(乗用車駐車場:80台)	()	()	()	()	()	()	()
		実績			乗用車駐車場:78台							
	進捗状況説明		・世界遺産今帰仁城跡の第3駐車場をアスファルト舗装等、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性の向上を図る事ができた。									

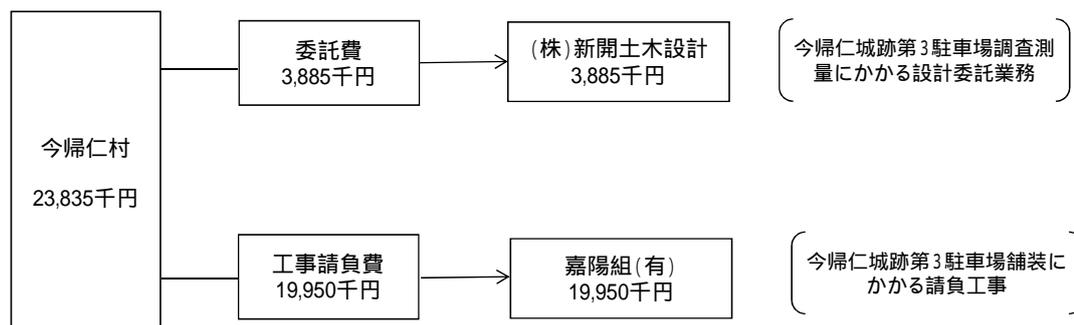
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・当初、簡易舗装と考えていた第三駐車場が予測がつかない状況が生じた。駐車場の一部が地表が落ち込んで深い空洞ができ、水をはけられない状況化のため池状況であった。このことから調査測量設計委託により浸透池等を整備した。整備後は雨天時でも乗用車の乗り入れがスムーズになり駐車場として活用が図られた。しかし、予定していた80台の駐車スペースの内2台分の駐車スペースに浸透池等を整備しなければならなくなり、駐車台数の減が生じた。</p>	<p>・浸透池等を整備したことにより、駐車場として活用することができたが、今後は、予定していなかった整備等が発生しないよう事前に十分な調査等を行うことが必要である。</p>

今後の取り組み方針

・世界遺産今帰仁城跡の第4駐車場を前年度でアスファルト舗装し、区画線及び安全対策をする事で利用者の安全性と快適性を改善することができた。また、今年度で第3駐車場を実施設計のうえ、アスファルト舗装等工事を実施し更なる利用者の安全性の向上が図られた。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
23,835	23,835	19,068	4,767	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託・工事請負事業者は指名競争入札方式で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		今帰仁村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 民泊・体験型観光受け入れ基盤整備調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (2) - ウ		
	担当部課名	経済課		事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
						- 1 - (1)	
事業内容							
民泊・体験型観光の運用体制構築・基盤整備のための基本調査を実施する。							
実施方法							
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,180	7,100			
		(b)予算現額	2,180	7,100			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	2,180	7,100			
	B.執行済額		2,180	7,100			
	うち交付金充当額		1,744	5,680			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容のうち、PR活動の所で学校新聞への投稿やチラシ、パンフレットの学校、旅行者向けの郵送を計画していたが、受入基盤整備としての優先順位を考え、先進地伊江島へ今帰仁村の受入家庭代表4人連れての視察研修に入れ替えたが、その他の事業内容はすべて実施し、目標の達成を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・民泊・体験型観光基本改革策定 ・民泊説明会 ・民泊誘致・PR活動	目標	(旅行者訪問説明会の開催)	(基本計画策定・民泊説明会の開催・民泊誘致・PR活動)	()	()	
		実績	旅行者26社説明会3回	基本計画策定 先進地視察研修実施 民泊誘致出展2回			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・全4回の委員会を開催し、基本計画の元となる現状の諸問題の確認、解決方法の検討、村内体験型アクティビティ提供企業やホテルとの協力体制の模索、これからのスケジュールの確認を行った。PR活動に関しては大阪・東京で毎年開催される沖縄コンベンションビューロ主催の修学旅行誘致イベントに出展し、関東圏、関西圏の旅行社、学校向けに誘致活動を行った。また、今帰仁村の民泊の魅力をより分かりやすく伝えるため、新たにリーフレットを制作し、民泊・体験型観光専門のウェブサイト構築と連動して受入家庭の管理を行えるシステム導入を行った。また、村内受入家庭向け、旅行社・学校向けの受入マニュアルを作成し効率的な受入体制を構築した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	・運用体制構築・基盤整備のための課題等把握	目標	()	(運用体制構築・基盤整備のための課題の把握)	(運用体制構築・基盤整備のための課題の把握)	()	()
		実績		課題の把握ができた	課題を把握し、運用体制強化を進め、予約を獲得できた		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・村民向け、旅行社向けヒアリング調査により民泊の市場動向が確認でき、4回の実際の受け入れを経験したことで、現状、課題を確認することができた。課題を委員会で協議し、今後の課題解決方法、方向性を確認することができた。平成25年度も関東、関西圏へのPR活動を行い、平成26年度には25校(延べ日数35日)、合計7,000人の修学旅行民泊受入を予定している。平成27年度、平成28年度に関してはまだ予約を受付している状況で、日々問い合わせが入ってきている。これからもっと受入数を増やしていくには、一度来てくれた学校がリピーターしてくれることが一番重要で、そのためにも受入基盤整備の一環として、受入家庭のレベルアップを図っていかねばならない。					

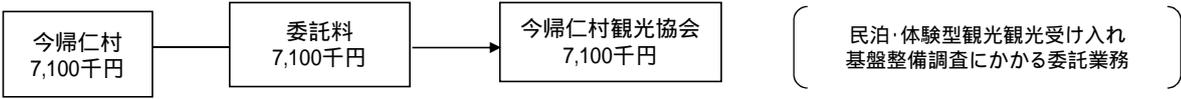
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・本年度、古宇利島と古宇利大橋でつながる屋我地島において、羽地・屋我地・古宇利に跨った民泊受け入れ組織が立ち上がり、古宇利島も範囲として含んでいるため、今帰仁村観光協会の行う民泊事業と古宇利エリアが重なってしまう状況が懸念される。予約が重なった場合、同時の受入は困難なため、窓口同士の協議、受入家庭への説明等が必要になってきている。伊江島の様に受入家庭がどちらかの組織に属するのか表明してもらう必要がある。問題解決の最善の方法を引き続き検討する必要がある。</p>	<p>・受入家庭における農林漁家の割合が依然低く、ある程度規模の大きな農林漁家の家庭は興味があってもなかなか話を聞く時間が取れない。説明会の時間に出てこれない、などの課題が見えてきた。直接出向いて説明を行い民泊受入家庭として登録してもらえる様にしていきたい。予約は順調に獲得できているので、さらに受入レベルを上げていくことが今後の一番重要となってくる。</p>

今後の取り組み方針

・本事業にて協議した課題解決策や実施基本計画に基づき、受入家庭の更なる募集を行う。また受入のレベル向上の為、安全講習やアレルギー講習等を実施していく。また、宿泊以外にも自然体験等も今帰仁村内で行ってもらえる様に体験アクティビティの整理、民泊とのセット商品化を模索していきたい。また、修学旅行以外の大人の民泊受入に関しても検討し、試験的に実施していきたい。PR活動に関しては、これまであまり今帰仁村に来ていなかった地域、茨木、栃木等東関東地域、九州地域に力を入れていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,100	7,100	5,680	1,420	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
			費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		今帰仁村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 今帰仁城跡ガイド強化事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (2) - 工		
	世界に通用する観光人材の育成						
担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度	平成25年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)
事業内容	<p>・今帰仁村には世界遺産今帰仁城跡が所在し、今帰仁グスクを学ぶ会によって来城者に無料のガイドが行われている。学ぶ会の更なる充実強化を図ることで、ガイド個々の資質向上が図られ、今帰仁城跡の魅力を観光客にアピールすることが出来るためガイドの強化を行う。</p>						
実施方法	<p>直接実施 委託 補助 負担 その他</p>						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,000	3,560			
		(b)予算現額	4,000	3,210			
		(c)増減額(b-a)	0	350			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	4,000	3,210			
	B.執行済額		3,885	3,210			
	うち交付金充当額		3,108	2,568			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		97.1%	100.0%			
予算の状況の説明		・予算内での適正な執行ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	目標		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	()	()	
		実績		・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピールの実施			
	・案内に資する知識を得るために講演会や研修会を開催する。	目標	()	(講演会や研修会の開催)	()	()	
		実績		講演会や研修会の開催			
達成状況説明	・講演会の開催、他の史跡見学及び地元ガイドグループとの交流、DVD等を用いた研修会開催、博物館講座への参加、大学公開講座への参加等を通して、ガイドの資質向上が図られている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール ・ガイドによる来訪者の案内11,000名目標	目標	()	()	・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール	()	()
		実績			・ガイドの資質向上及び今帰仁城跡のアピール		
	・ガイドによる来訪者の案内者数	目標	()	()	(11,000名)	()	()
		実績			11,419名		
	進捗状況説明	・講演会、研修等の開催、見学会の実施等を通してガイドの資質向上を図りながら、案内ガイドの訓練実績を重ねてきた。25年度の来訪者への案内は、目標数値を上回る11,419名の案内実績を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・講演会や研修会を実施したり、図書を購入して知識の向上を図っている。また他市町村の文化財ガイドグループと積極的に交流を図るなどして、ガイドの資質向上に努めている。よって、特に課題はないと思われる。</p>	<p>・平成25年度、今帰仁城跡の入場者数は前年度比約16,000人増となり、これは3年ぶりの大幅増であった。これに伴い案内ガイドの回数も増加するに至った。26年度も観光担当部局との連携による観光客誘致活動がスタートしており、さらなる入場者数の増加が見込まれる。そのため、数名程度ガイドメンバーの増員を検討したい。</p>

今後の取り組み方針

・今後も講演会、研修会、見学会等を実施して案内に資する知識や経験を重ねていく。また、ガイド養成講座を実施し、メンバーの増員を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,210	3,210	2,568	642	0



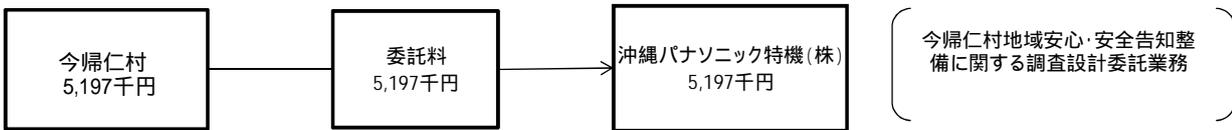
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者である「今帰仁村グスクを学ぶ会」は、ガイド業務について約8年の実績があり、業務の計画や現場の現状に詳しく、この種の業務に精通した人員を擁しており、妥当な委託先であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	今帰仁村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	今帰仁村地域安心・安全告知整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくり防災体制の強化 -10-(2)	
事業内容	・近年では、地震発生・集中雨の頻発による土砂災害への懸念や津波による大規模災害も想定されることから、緊急性の高い情報の伝達、予測段階(注意喚起)での活用、また行政情報等の住民への伝達など防災情報に特化せず幅広く活用するための情報伝達手段を整備する。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		5,250			
		(b)予算現額		5,197			
		(c)増減額(b-a)		53			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		5,197			
	B.執行済額			5,197			
	うち交付金充当額			4,157			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			100.0%			
予算の状況の説明		・委託料で53千円の予算執行残が発生しているが、公募型プロポーザルにより業者選定を行い事業実施が行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・効果的な情報伝達手段の調査及びシステム構築調査(19行政区 小学校3校 中学校1校)	目標	()	()	()	()	
		実績		構築調査 ・19行政区 ・小学校3校 ・中学校1校			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・教育委員会(各学校長との調整)との情報伝達手段の調整及び決定、各行政区への現状調査及びシステム構築へ向けた説明、通信環境の調査設計及び音波に関する調査。消防署(本部今帰仁消防)及び沖縄県とのデジタル通信施設共用に関する調査を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・効果的な情報伝達手段の調査及びシステム構築調査(19行政区 小学校3校 中学校1校)	目標	()	()	()	()	()
		実績			構築調査 ・19行政区 ・小学校3校 ・中学校1校		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	・教育委員会(各学校長との調整)との情報伝達手段の調整及び決定、各行政区への現状調査及びシステム構築へ向けた説明、通信環境の調査設計及び音波に関する調査。消防署(本部今帰仁消防)及び沖縄県とのデジタル通信施設共用に関する調査ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・東日本大震災のような大規模災害が発生した場合、地方自治体単独で対応できる範囲には限界があり、限界点も各自治体の体力に応じさまざまである。しかしながら地方自治体として住民の生命を守る責務に差異はなく、近隣市町村(広域エリア)と連携した取り組みを行うことにより自治体間の格差は無くなる。よって広域的な災害を考慮したシステム構築(特に災害後)、及び近隣市町村とのシステムの連携のあり方について検討が必要である。</p>	<p>・各市町村のインフラやシステム環境が異なっているため県又は広域的なレベルでのシステム構築が必要となる。県・市町村の縦の連携だけでなく、市町村間の横の連携も必要である。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・効果的な情報伝達が可能となるシステム構築の実施(19行政区・小学校3校・中学校1校)。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,197	5,197	4,157	1,040	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>公募型プロポーザルにより業者を選定し事業を行ったが、事業成果から妥当であったと考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	